

令和５年度小松市立矢田野小学校 学校評価 2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・８月提出）
生徒指導	自ら主体的に活動し、互いの良さを認め合える児童の育成 ＜生徒指導３機能を生かした授業づくりや学級づくりの共通実践＞ ①一人ひとりが主体的に考えて行動することができるように、４つのステップを全職員で共有し、児童への関わりを進めていく。 ※４つのステップ①目的意識を持つ②見通しを持つ③自己決定する④責任をもって行動する ②振り返りを行う際に教師が積極的に価値づけや意味付けを行い、更なる主体性の向上を図っていく。	
特別活動	自分たちで楽しくよりよい学校を作ろうとする児童の育成 ・学級をよりよくするためにクラス会議に取り組み、児童の主体性や学級の自治力の向上を図る。 ・児童会活動を通して、自分たちで学校をよりよくする、盛り上げるための活動を計画し、実践する。 ・児童議会で、学校全体に関わる問題解決の方法を話し合ったり、楽しいイベントを企画・提案する。 ・縦割り活動を２か月に１回実践し、他学年同士の関わりを深める。	
特別支援教育	＜自分と相手を大切にし、意欲を持って前向きに生活できる児童を育てる＞ ・児童の情報を職員間で共有し、児童理解の会や校内委員会等の場を活用し、児童の特性を共通理解し、職員相互で協議して個に応じた支援策を考え、共通実践を進めていくことで支援していく。 ・校内の人材（SC、心の相談員、支援員）を有効に活用し、児童・生徒に寄り添い、その困り感を支え、意欲を持って前向きに生活できるように支援する。 ・幼保小中の連携を密にし、長期間で子どもの育ちを支援する。	
（キャリア教育） 道徳教育	＜自他のよさを見つめ、前向きによりよく生きようとする児童の育成＞ ・学級活動や総合的な学習の時間を中核として、自他と関わり、積極的によさを見つけることができるように支援していく。 ・係や委員会活動に進んで取り組み責任を持ってやり遂げられるように、定期的に振り返るなどの支援をしていく。 ・個々の目標や課題に前向きに取り組み、解決したりやり遂げたりすることによって満足感が味わえるように支援していく。	
図書教育	＜読書の習慣化と質的向上を図り、不読者をなくす＞ ・おすすめの本を10冊以上読むと、プラス1冊券が、10冊以上読むと、プラス2冊券がもらえる。おすすめの本を読むことで、読書の質的向上を図る。 ・いしかわ学校読書の日（小松市民読書の日）には、毎月3冊貸し出す。「先生のための図書だより」を発行し、担任からの声掛けをすることで、不読者をなくす。年に2回夏休みと冬休みには、親子読書にも取り組み、保護者にも読書に関心を持ってもらう。親子読書は95%の提出を目指す。 ・国語の授業で、年1回は並行読書を活用する。	
保健教育	自分の身体や健康に関心を持ち、健やかな心と体を育む児童の育成 ・「ミニ健康指導」を、年間2回実施する。 ・規則正しい生活を送るために、早寝早起き朝ごはんを推奨する。 ・感染対策予防として、ハンカチティッシュを毎日持つてくる。 ・お口の中の清潔や虫歯を防ぐために、給食後は、歯磨きをする。 ・これらによる成果を検証する。	
体育	自分の身体や健康に関心を持ち、健やかな心と体を育む児童の育成 ・学期ごとに体育の授業で行った効果的なウォーミングアップや練習、場の設定を職員間で共有する。 ・体育の授業改善として、スモールステップで達成感が感じられる環境やルールを設定し、運動特性に合わせた授業設計をする。どの学年でも「体育が好き」と答える児童が70%以上になることを目指す。	